

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)

請求の範囲

1-13

請求の範囲

有
無

進歩性(I S)

請求の範囲

1-13

請求の範囲

有
無

産業上の利用可能性(I A)

請求の範囲

1-13

請求の範囲

有
無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

- 文献1: 日本国実用新案登録出願2-38369号(日本国実用新案登録出願公開3-128848号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録したマイクロフィルム、(株式会社堀場製作所) 1991. 12. 25
- 文献2: JP 8-148209 A (松下電器産業株式会社) 1996. 06. 07
- 文献3: JP 2002-177210 A (旭光学工業株式会社) 2002. 06. 25
- 文献4: JP 4-357449 A (松下電器産業株式会社) 1992. 12. 10 & US 5320732 A

請求の範囲1-13

国際調査報告で引用した文献1の第2頁第5行~第5頁第5行、第7~10図等には、試料液を含む反応場を提供し、かつ上記反応場に対して第1および第2電極を備えた分析用具を装着して使用する分析装置であって、上記第1および第2電極に接触させるためのコネクタ部と、このコネクタ部を介して上記分析用具から取得した上記試料液に関する情報に基づいて分析を行う分析回路と、を備えた分析装置において、上記コネクタ部を介して入力される外乱ノイズを吸収するための抵抗、コンデンサを含んだ保護回路を設けた分析装置が、記載されている。

そして、一般に分析装置において電圧を印加する技術は周知技術(必要ならば、JP 7-140114 A、文献4等参照)にすぎず、保護回路をコネクタ部と分析回路とを繋ぐ信号線に設けるか、コネクタ部に設けるかは、分析回路を保護する配置を考慮して当業者が適宜選択する事項にすぎない。また、分析装置を携帯可能にすることは、分析装置を構築する上で設計的事項にすぎない。

国際調査報告で引用した文献2には、ノイズ対策部品としてコイル、バリスタ等を用いる技術が記載され、国際調査報告で引用した文献3の第4頁右欄第5~8行には、ノイズ対策要素としてフェライトコアを用いる技術が記載され、さらに国際調査報告で引用した文献4には、対極および測定極を利用して反応層に電圧を印加したときに得られる電流値に基づいて、血液中のグルコース濃度を演算する分析装置が記載されているから、文献1の保護回路にコイル、バリスタ、フェライトコアを採用すること、文献1の分析装置として血液中のグルコースを測定する分析装置とすることは、当業者が容易に想到する事項である。

よって、請求の範囲1-13に係る発明は、進歩性を有さない。